

〈様式2〉

## 令和5年度 体力向上における各校の成果(中学校)

大野市

教育委員会

No	学校名		成 果
1	開成	中学校	ICT機器を積極的に活用することで、自分の動きの向上や気をつけるべき点などを客観的に見ることができ、運動が苦手な児童も意欲的に取り組むことができた。また、自分たちで撮影した動画を見合い、自然と友達同士でアドバイスし合う姿も見られた。 「マラソンカードポイントアップキャンペーン」には、連日全校生徒の6割前後の生徒が参加した。運動が苦手な児童もたくさん参加し、すすんで運動をする雰囲気づくりができた。
2	陽明	中学校	短距離走・ハードル走の授業で自分の走るフォームを動画で撮影し、見返すことで、スキルやタイムの向上につなげることができた。 長距離走の授業で、グラウンド一周ごとのラップタイムを記録し、ペースメイクを意識した結果、体力テストの持久走の記録が全国よりも約3点高くなった。 球技の授業でゲームの運営(チーム分け・対戦方法・得点・主審・線審等)を生徒が全て行うことで、生涯スポーツへの関心を高められた。
3	上庄	中学校	女子においては、多くの項目で県平均や全国平均を超えられなかったが、持久走では県平均を上回ったのは、授業での取り組みの成果と考える。回数を重ねるごとにタイムは上がり、成果が感じられた。 体育大会では、自分たちで種目を考案させたことで、運動の苦手な生徒でも主体的に競技に参加することができた。 授業の中での自分の動きを動画で記録することによって、参考動画と比較し、技のポイントを意識して活動するようになった。
4	尚徳	中学校	体育の授業では生徒同士でよく考え、目的をもって意欲的に取り組む生徒が増えたように感じた。 スキー部がアルペン種目で全国中学校スキー大会に出場した。 タブレットを活用することで、活動説明を簡略化し、活動時間を多く確保することができた。
5	和泉	中学校	「柔軟性」「瞬発力」「持久力」の向上を目標とし、普段の日常生活や部活動で意識して取り組んだ。目標とした体力の向上や維持をほぼ達成できた。体力テストでは、多くの種目で平均以上の結果を出せた。8種目の内平均以上の種目数: 1男(7) 3男(6) 2女(8) 3女(3) 昨年度に続き、体全体を使って運動することの大切さを意識させたことで、技能の向上が見られた。